

英文法拾遺 XI

伊藤 清

oneself

① Oneself の形に関しては再帰と強意の2用法が文法書に説明されているが、それら2用法以外に1種の簡略用法とも言うべきものがある。Can you hear *me*? の *me* は what I am saying の意味を、Thank you for *last night* の *last night* は what you did for me last night の意味を端的に具象的な *me*, *last night* でそれぞれ示しているが、reflexive verb の目的語たる *oneself* は人間の有する様々な面のうちの1面を上記の *me*, *last night* と同様に、より具象的且つ簡潔に示したものである。例えば overeat (*oneself*), oversleep (*oneself*) の *oneself*——この *oneself* は現代英語では徐々に省略されつつあるが——は人間の動作・状態の普通の時を念頭に置いてそれを *oneself* で示したものである。この句をそれぞれ

to eat too much, i. e., more than the usual quantity that one eats

to sleep too much, i. e., more than the usual length of time one sleeps

と云えば煩雑になる概念を極めて簡単に具象的に表し得る。

1. 'Give Alphone my compliments, and tell him he's excelled *himself*.' —— Christopher Isherwood: *Prater Violet* (アルフォンに本人すら思いがけないほど旨くやれてよかったですねと言って上げてくれ。)

excel *oneself* は to be superior to one's own usual capacity なる内容を1語で表わしたものである。

2. I admired their courage to be *themselves* in the face of it all. ——Richard

Brautigan: *The Tokyo-Montana Express* (私はたった二片だけで降ってきたにもかかわらず平静さを失わない二つの雪片の勇氣に感心した。)

3. She was *herself*, just the same, with all her anger and frustration inside her, and her incapacity to feel anything real. —D.H. Lawrence: *Sun* (それでも、内心のあらゆる怒りと失望、また何事も現実として感じるができないにもかかわらず、彼女は平静であった。)

4. Harvester: She really isn't *herself* to-day. —Somerset Maugham: *The Sacred Flame* (彼女は今日は普通の彼女じゃない。)

5. Stella: You're not *yourself* to-night. —Maugham: *The Sacred Flame*.

6. As the winter went on, it became obvious to me that the Crown Prince was happiest and most *himself* when he was with the other boys. —Elizabeth Vining: *Windows for the Crown Prince* (冬が去るにつれて私には皇太子が他の少年たちという時が最も楽しそうで最も彼らしいということが分かってきた。)

上例はいずれも to be one's normal state of mind or physical condition あるいは one's usual self を -self または -selves 1 語で表している。例5の *yourself* も「普通の、いつもの you」を意味しており、これを you とすれば肉体的に同じ人間となり意味を成さない。例6では補語 *himself* は most に修飾されて *himself* である状態の度合が最高であることを表している。一般的に言って主格補語、目的格補語のいずれであっても補語は関係する主語または目的語について説明するという多分に形容詞の働きをするものであり、この *himself* も形容詞の働きをし、most *himself* は 副詞+形容詞 の型となり happiest と共に主語 Prince を説明している。

7. When doctor Storm came at nine-thirty, after a telephone call from the nurse, and looked grave and spoke of horses' blood as being better,...

Haymaker was beside *himself* with self-reproaches and sad, disturbing fear. —(ドクターストームが看護婦からの電話で九時半にやってき、深刻な表情で人間の血液よりもよいものとして馬の血液について話した時、ヘイメイカーは自責の念と悲しい、心を乱す恐れで我を忘れた。)

例7の *himself* も *himself* で表される人間の普通の状態 his normal state な

る抽象概念の具体化である。しばしば見かける *out of oneself* の *oneself* も同様であり、*come to oneself* も「然るべき状態（まで到る）」を表す。

oneself でなく *one's usual self* の形を採る例も見ることができる。

8. Stella : I'll go in and see him before I go to bed. If he can only get a good rest I'm sure he'll be *his usual self* to-morrow. —Maugham : *The Sacred Flame* (寝る前に行って会ってみましょう。もし彼がぐっすり寝ることができさえしたら明日はきつといつもの自分に戻るでしょう。)

② 上記と同じように *oneself* を用いても以下に示すように、それを目的語とする動詞または前置詞によって *oneself* の内容は変わる。*oneself* はその中に漠然と包含する内容を端的に 1 語で表す。

9. Margery : It's in self-sacrifice that a man fulfils *himself*. —Maugham : *The Bread-winner* (人が自分の資質を十分に発揮するのは自己犠牲の中にあるのです。)

10. But time and usage have avenged *themselves* on Cobbett and justified the Doctor : *than whom* is standard English to-day, admitted and blessed by the Oxford Dictionary. —G. H. Vallins : *Good English* (しかし時間と慣用とがコベットの仕返しをし、ジョンソン博士の使った *than whom* を正しいものとした。これは今日では標準英語であり、オクスフォード辞典によって認められよとされている。)

11. No evil fate avenged the jaunty violence. —Winston Churchill : *Painting As a Pastime* (思い切った絵筆の使い方をしても絵を台無しにすることはなかった。)

12. and he ceased to bestir *himself* in the world, or to care for the retrieval of his fortunes—Poe : *The Murders in the Rue Morgue* (そして彼は世間で活動することも自分の財産の回復を望むこともやめてしまった)

例 9 に見られる *fulfil oneself* は「自分の可能性、資質（を十分に発揮する）、自分の願望（を果たす）」などの意味を表す。例 10 の型の *oneself* は「自分自身が中に持っている意趣、鬱憤（などを晴らす）」を意味する。例 11 は *oversleep oneself* の *oneself* と同じく目的語を取らない使用例である。例 12 の *bestir oneself* は「静止状態にある自己」を動かすことであり、「心身を

奮い起こす、奮起する、努力する」の意を示す。再帰目的語の1種と言える。

13. Alfred : You don't know what you're saying. For God's sake pull *yourself* together, old bean. —Maugham : *The Bread-winner* (君は自分が何を言っているのか分かっていないんだ。頼むから気をしっかり持ってくれ、ねえ君。)

to pull *oneself* は色々の事に会い心身を消耗した「(ばらばらの状態から) 自分という一つの統合体 (に纏める)」の意を表す。次の例も「心を落ち着ける、気を取り直す、平生の自分を取り戻す」など pull *oneself* とほぼ同様の意味を表す。

14. (Trying to collect *himself*.) I'm sorry. —Maugham : *For Services Rendered* (気を取り直そうと努め乍ら。) すみません。)

15. In an instant afterward I recollected *myself*, and my astonishment was profound. —Poe : *The Murders in the Rue Morgue* (私はすぐ落ち着きを取り戻すとひどく驚いた。)

16. (Eddie gathers *himself*. A pause.) —Miller : *A View from the Bridge*

17. then apparently recovering *himself* in some measure, he seized a pen, after several pauses and vacant stares, finally filled up and signed a check for fifty thousand francs. —Poe : *The Purloined Letter* (それから幾分落ち着きを取り戻したらしく、ペンを取り上げ、何度もためらって前をじっと見つめていたが、遂に五万フランの小切手に書き込みをして署名した。)

次の avail *oneself* は「(いざというとき、うまい機会が来た時～に関連して) 自分自身を有効に使う、生かして使う」を意味する。また enjoy walking (散歩を楽しむ), enjoy the evening (一晩を楽しむ) などは文字通りの意味であるが、enjoy *oneself* は自分の持っている好み、願望あるいは appetite など *oneself* で簡潔に表しそれを堪能するの意である。

18. I made up my mind not to avail *myself* of his kindness. —Maugham : *The Bread-winner* (彼の親切を利用しないように決心した。)

19. Also he knew that her panic would disappear the moment she set foot in the house, and that she would most likely end by enjoying *herself*. —Struther :

Mrs. Miniver (また彼は彼女の(理由のない) 恐れが(訪問先の) 家に足を踏み入れた瞬間に消えるだろうということも、また彼女がしまいには恐らく愉快に過ごすだろうということも知っていた。)

20. But when I discovered that though they never believed the truth, they swallowed the most fantastic lies, I amused *myself* a great deal. —Jean Rhys: *Overture and Beginners Please* (しかし私は彼等がその真実性を信じることはないながらも、まったく空想的な嘘を鵜呑みにしていることが分かった時ひどく面白く思った。)

③ 普通では単一形の人称代名詞が用いられる場合に他の語に対する音量的な均衡から *oneself* の形が用いられる例が見られる。主格として用いる場合もあれば、目的格として用いる場合もある。主格して、

21. Jupiter and *myself* are going upon an expedition into the hills, upon the mainland, —Poe: *The Gold-bug* (ジュピターと私自身は本土の山の中へ探検に行くんだが、)

22. Just the same, as I say, I have the feeling that Mrs. Haymaker is not really likely to die soon, and that we—Doctor Grainger and *myself*—will still be able to pull her through. —Dreiser: *Free* (それでも申し上げているように、私はヘイメーカー夫人が実際にすぐに亡くなられそうには感じられませんし、まだ私達が——グレイジャー博士と私とが——まだ奥様を回復させることが出来るでしょう。)

23. To the moralist it will be unnecessary to say, in addition, that Wilson and *myself* were the most inseparable of companions. —Poe: *William Wilson* (道徳家にとっては付け加えて言うのも不必要であろうが、ウイルソンと私とは最も断ちがたい仲であった。)

24. We started about four o'clock—Legrand, Jupiter, the dog, and *myself*. —Poe: *The Gold-bug*.

25. It was with great difficulty that my wife, a servant, and *myself*, made our escape from the conflagration. —Poe: *The Black Cat* (妻と召使と私とは辛うじてわが家の火災から逃れた。)

以下の例文に見られる目的格の場合でも、比較対立の観念が強い時には音量

を増すことによって -self の形が用いられることがある。

26. His father and mother were the companions of *himself* and his wife for ten years after they were married, when both died ; —Dreiser : *The Lost Phoebe* (彼の父母は彼等が結婚したあと十年間彼と彼の妻と共に暮らし、やがて亡くなった。)

27. Stella : What passed between my husband and *myself* was between ourselves. —Maugham : *The Sacred Flame* (夫と私の間にあったことは私達の間のことです。)

28. the duty of keeping society on an even keel, of not bringing disgrace to his children and *himself* and her, —Dreiser : *Free* (世間のしきりに逆らわず、子供たちや彼自身や妻に不名誉なことは齎たらさないといった義務)

対立語が明示されていない場合にも種々の理由によって -self 形が使用される時がある。例29では *me* とすれば音量が少なくなる。ここに使用された *older* は *over* の目的語であり、名詞の働きをなし *older boys* を意味し、この句と *myself* との間に対立が見られる。30では *than (I) myself* の気持で用いたものであろう。31では *than (what is best for) herself* なる *clause* の省略が感じられるので *her* のみでは弱すぎるためであると考えられる。32も *as (thou love) thyself* の意味であり *thee* のみでは弱く感じられる。33も明示されない他の人と比べた自分自身を強めた用法であり、34は *(they were) themselves based* と主語として強意を表す。

29. In truth, the ardour, the enthusiasm, and the imperiousness of my disposition, soon rendered me a marked character among my schoolmates, and by slow, but natural gradation, gave me an ascendancy over not greatly older than *myself*. —Poe : *William Wilson* (実際私の気質の激烈さ、熱情、そして尊大さは級友中に私を際だった人物たらしめると共に徐々に、しかし自然な成り行きによって私に私自身よりさほど年上でない少年たちを支配するようにさせた。)

30. Upon the whole, no person could be less liable than *myself* to be led away from the severe precincts of truth by the *ignes fatui* of superstition. —Poe : *Manuscript Found in a Bottle* (相対的に言って、私ほど迷信の鬼火によって真理の

厳格なる域内から連れ出されにくかった者はいなかった。)

31. She must love her unborn child enough to consider primarily what is best for it, rather than *herself*. —Ashley Montagu : *Coming into Being* (彼女は自分よりもむしろ、なにが赤ん坊に一番良いかを真っ先に考えるほどまだ生まれていない赤ん坊を愛するに違いない。)

32. Love thy neighbor as thyself. —Matt. 19 : 19

33. “The result was precisely what I hoped it might be. As it is *myself* who now tell you this tale—as you see that I *did* escape—and as you are already in possession of the mode in which this escape was effected, and must therefore anticipate all that I have further to say—I will bring my story quickly to conclusion.” —Poe : *A Descent into the Maelström* (その結果は私が望んだそのとおりのものでした。この話を今お話しているのが私自身ですし——私が助かったのはご覧の通りですし——こんなふうに助かった方法も既にご存じなので、それにこれからお話しすることは予想されているに違いありませんので——話の結論を急ぐことにいたしましょう。)

34. while the rules of Hoyle (*themselves* based upon the mere, mechanism of the game) are sufficiently and generally comprehensible. —Poe : *The Murders in the Rue Morgue* (またホイルの法則は(それら自体はゲームの単なるメカニズムに基づいているから)十分に全体として理解できる。)

次の35では *myself* は主語と離れすぎているため、また主語と同一人という観念が働いているため用いられたものであり、36の *as myself* は *as mine* とした場合と異なり、*as (I had) myself* の意味で用いられたものであり、やはり強意を表す。37に関しては (I) *myself* の気持で、三人称よりも一人称を先に置いて強めている。

35. because of him I shall not act again from the depths of *myself*. —Doris Lessing : *An Unposted Love Letter* (心の底から私は彼のために再び行動を起こすようなことは致しません。)

36. who, although no relation, bore the same Christian and surname as *myself* —Poe : *William Wilson* (彼は親戚ではなかったが名も姓も私と同じであった)

37. *Myself* and my two brothers once owned a schooner-rigged smack of about seventy tons burthen.—Poe : *A Descent into the Maelström* (私と私の二人の兄弟とは以前70トン積みぐらいのスクーナー式漁船を持っていました。)

以下の例に見るように、話題の中心であるため、単に目的格のみでは意味・発音の面からも弱く、また *-self* と併用すれば強すぎるため、*-self* 形のみが用いられる場合がある。38の *myself* は *me* とするほうが現在の英語の用法であろうし、*-self* の乱用は避けるのが当然である。40の *himself* は今まで述べてきた人物 (Haymaker) と同一人物であることを示すために用いられたものである。

38. I had but one consolation—in the fact that the imitation, apparently, was noticed by *myself* alone. —Poe : *William Wilson* (私には私と私の相手との間の類似はどうやら私のみによって 気付かれているという 事実にただ一つの 慰めがあった。)

39. She is very gentle, a trifle subdued, but she does not give you the impression of being at peace with *herself*. —Maugham : *For Services Rendered* (彼女は非常に上品であり、すこし沈んではいるが自分の現状に満足しているといった印象は与えない。)

40. Zingara was an architect like *himself*. —Dreiser : *Free* (ジンガーラは彼と同じように建築技師であった。)

oneself の強意用法は主語もしくは目的語の働きをせず、構造上から言えば文の必須要素ではない。文中での働きは一種の副詞用法である。41～44では文中での副詞の位置を占めている。45では *one* は Catherine ではなく一般の人を表し、*one* を受ける *who* と強めのために付け加えられた *herself* とは同格であるが Catherine を意識したために *herself* となったものである。

41. Mrs. Tabret : I could never bring myself to teach my children what I couldn't *myself* believe. —Maugham : *The Sacred Flame* (私は私自身が信じられないことを子供たちに教える気にはなれませんでした。)

42. because they had *themselves* become cowards, —Peter Milward : *The*

Mystery of Words (人々は彼等自身が憶病者になってしまっていたので、)

43. Thornton was *himself* bruised and battered, and he went carefully over Buck's body, —London: *The Call of the Wild* (ソートン自身も(激流中の岩に) 擦り傷を受け、次々に叩きつけられてはいたが、しかも彼はバックの体を注意深くしらべ、)

44. It will, I know, have its own mistakes, which the reader will detect and to which, ironically, I may *myself* be blind. —Vallins: *Better English* (この本には、読者が見つけ、皮肉にも私自身には見えないかもしれない、この本自体の誤りがきつとあるであろう。)

45. Catherine: (as one who *herself* is trying to rationalize a buried impulse): —Miller: *A View from the Bridge* (心の中の隠された衝動を理由づけようとして いる人のように)

主語と同格と言われている each, both, all 等も次のような場合には副詞的気持が強く、文中で文修飾の副詞の占める位置に来る。ただその性質上接続副詞と同じように直接動詞にかかる意味合いは少ない。

46. We had *each* been drinking out of one of the bottles and I took my bottle with me... —Hemingway: *A Farewell to Arms* (私達はそれぞれ1本ずつ壺を抱えて飲んでた。私は自分の壺を持って...)

47. They had *both* been dreaming the same dream. —Lamb: *Tales from Shakespeare* (彼等は二人とも同じ夢を見ていたのだった。)

48. It had *all* been got ready specially. —Maurier: *Rebecca* (その部屋は全く特別に用意されております。)

——文学部教授——